

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200098		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 静岡駿河の家 (1号館)		
所在地	静岡県静岡市駿河区中野新田396		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とご家族のように親密に付き合い、御近所の方々とも、会議やイベントを通し良好な関係を通し築くことが出来ている。開設当初より食事はすべて手作りにこだわり、食材は毎日買い物をし新鮮な物を提供している。買い物には利用者様も同行し、食事作りにも参加して家庭的な雰囲気を作っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200098-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年9月10日		

事業所と地域の住民とは日常的に交流があり、外に出れば、ご近所の人と挨拶をし雑談を楽しむこともある。すぐ近くの住民から「駐車場を貸して」と気軽に玄関に声がかかる。運営推進会議に町内役員以外に近所の方の参加もあり、入居者も交代で4~5名が参加している。災害時に地域の協力が必要である旨の話し合いは継続して行われている。職員同士の人間関係が良好で退職者が少ない。2か月に1度本部から音楽療法の指導員が来るときや行事を1階、2階合同でやることでホーム全体で交流してお互いを認め合う、温かな笑顔の絶えない夢のある我が家の理念が浸透してきている。入居者は”皆で一緒に集団活動”をではなく自由に過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「地域に根付いた笑顔の絶えない夢のある我が家」を各職員が意識し、日々の業務 イベント等を行っている。	開設当初からの理念は玄関、事務所に大きく掲示され、管理者は「規約と理念」の話を会議でしている。地域住民と職員、入居者は日常的に交流し、職員同士仲がよく常に笑顔で入居者に接し、穏やかに過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の参加をはじめ、イベントでの地域の方々の参加もあり、日々利用者様と御近所様との交流がある。	町内会の回覧板を届けに行き話をし、散歩で近隣のペットショップへ出かけ長く立ち話をしていることがある。日常にお花や野菜、おむつ等介護用品を頂く事がある。お互いの催事に招待し合い、参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長や地域の方々に運営推進会議に参加して頂きホームでの現状報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げた議題について、様々な意見交換や状況報告を行い、サービスの向上に努めている。	地域包括職員、地域の役員、民生委員、近所の方、入居者、家族等の参加があり、偶数月に開催している。報告の後、出席者からの意見が多々出て、防災時は地域の協力が必要であると近所の方の協力を依頼する等会議が有意義なものになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居退去時の手続きの相談等を連絡する際近況報告は欠かさず行い、サービスの向上に努めている。	生活保護の受け入れをし、介護支援課とは連絡を取り合っている。行政に推進会議の議事録他申請や事故届等を提出、都度内容の検討を行っている。地域包括から困難事例の相談や受け入れ要請がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修の参加に伴い各職員が身体拘束への理解を深め、玄関の施錠等出来る限り行わず、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束0宣言」を掲げ、研修や日頃から申し送り等で拘束への理解を深めながら、対応している。車椅子からずり落ちそうな人に常時見守り対応を行う、居室で転倒の危険回避の為、タイルカーペットを敷き詰める等、拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加することで、各職員が理解し、日常的に意識をし、防止に努めている。		

静岡県(グループホーム 静岡駿河の家 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者様に関しては、日常生活自立支援事業を使用し、研修等でも学ぶ機会を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書 重要事項説明書等の説明を十分に行い、利用者様 御家族様の理解納得を心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の日常の声を業務に反映させると共に運営推進会議へ参加して頂き、御家族様はじめ外部の方々意見を取り入れている。	意見箱を設置してある。入居者の自立度は高く、運営推進会議に交代で参加し意見を発信している。家族が来所する時要望等を聞くようにし、聞いたことは介護記録に記入、早急な要望等は申し送りノートに記録、全職員はサインし内容を周知している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に職員会議やカンファレンス、朝礼にて各職員の意見や提案を聞き、反映させる機会を設けている。	館長やリーダー、職員は話し易い関係であり、意見や提案は日常的に聞いている。必要な物品は本部へ規定の用紙で要請、行事等金銭が発生する内容の物は本部へ稟議書を提出し実行に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を取得するとそれに見合った資格手当が付与される為、各自向上心を持ってレベルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度本部が作成している資料を管理者、職員で読み合わせして内容を理解し、仕事にいかすよう皆で確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や研修にて情報の交流、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様とコミュニケーションを図り、困っている事、不安な事が無いか尋ねご本人様が少しでも不安があるようなら話を聞き、不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様と直接対話をし、情報収集を行い、その中で信頼関係の構築に努めている。毎月御家族様宛に担当者が手紙を書きコミュニケーションを図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族様と対話し多くの情報を取得し、必要であるサービスを見極め提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でご本人様が行える事を見つけ出し、お手伝いをして頂く事により役割をもって共に助け合う関係を築き上げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様のちょっとした変化に対しても御家族様に連絡し、共に考え支え合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会によってホーム以外の方とも気兼ねなく会えたりしている。生活歴や今現在の状況を把握しサービス提供を行い喜んで頂けるよう心掛けている。	在宅の頃から信心を継続している人の友人たちが訪れてきている。競輪場へ行きたい人に職員が連れて行く等、馴染みの人や場所への入居者からの要望を可能な限り、途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は一人一人の性格や利用者同士の関係の把握に努め、問題が起きないように意識している。生活の中でそれぞれが出来る事を行い共に支え合っている。		

静岡県(グループホーム 静岡駿河の家 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも相談を受け付け、介護の立場から適切なアドバイスが出来る様心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様御家族様に適時ホームでの希望を尋ね、職員会議やカンファレンスで話し合いを行って検討している。	入居者は日常の会話の中で、思いや希望を伝えていて、「イタリア料理が食べたい」「動物園に行きたい」等を聞いた職員は入居者の仲の良い人同士で行っている。意思表示の困難な人の思いは元気だった頃の好きだったことなどを様子を見ながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や御家族様から情報を頂き、記録に残しこれまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れを把握し、残存機能を生かせるように、日常生活の中に生活リハビリを取り入れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や御家族様がどのようなケアを希望するか事前に尋ねておき、カンファレンスで話し合い、それぞれお意見やアイデアを取り入れている。	3ヶ月に1回、1人30分かけて職員でカンファレンスを行い、6ヶ月や状態の変化が見られた時、計画を作成している。家族や本人から「穏やかに暮らして欲しい」「暮らしたい」の要望に副った計画を作成し、家族へ月1度の来所時に説明、確認を取っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた事や些細な変化等、常に申し送りノートや介護詳細に記入し現状を常に把握している。カンファレンスで話し合いケアプランの修正を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に応じたサービスを提供している必要な物はご家族様に報告したり、本部で注文を行ったり適応性に富んだ対応を行っている。		

静岡県(グループホーム 静岡駿河の家 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や運営推進会議を通して家族や地域の方々との交流を深め意見の交換をし、利用者様が社会に参加し安全で豊かな暮らしができる様になっている。市や自治体の行事にも積極的に参加するようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人や家族の希望に応じかかりつけ医又は提携医に定期的又は必要に応じて受診している。	入居時に説明をし、全員内科は協力医に変更、職員が同行で受診している。基本、他科への受診は家族になっているが、家族の希望で可能な限り、送迎のみしている人もいる。結果は双方で説明し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医を受診した時や電話により看護師に利用者の状態を伝えたり相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院した病院に週一回以上は訪問・見舞いをし、看護師や医師 必要に応じてケースワーカーと利用者様の状態について連絡相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の状態や希望についてご家族様と話し合い、事業所で出来ることを説明し、家族の状況 希望を把握し必要に応じて老人福祉施設や病院への異動を検討できる体制をとっている。	医療連携が困難で事業所では看取り介護について重度化した場合、家族と相談しながら対応している。立位保持、食事がとれなくなる前に家族と今後のことについて話し合っている。	本人・家族の意向の確認、事業所としての指針を作り、医療機関・家族と支援する方策を図っていくことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議等で応急手当や初期対応について勉強会を行ったり急変や事故発生時に備えて職員同士又は利用者家族を含めて、話し合いの場を持っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を想定して避難訓練を実践し、問題点については職員会議や運営推進会議で地域の方々と交えて検討している。	年1回は夜勤者のみで夜間想定訓練をし、1回は昼に地震、火災を想定した避難訓練を行った。車椅子の人を2階からおぶって降り、駐車場まで時間を測っての訓練等の結果を推進会議で話し合い、地域の協力の必要性が出席者から出るなど前向きに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアにおいて親しさの中に礼儀や尊敬の念をもって利用者様に配慮した対応ができていますか職員同士注意し合っている。	親しみを込めて下の名前「〇〇さん」と声掛けし、年上の人に対する職員の不適切な言葉使いがあった時、その場で注意している。朝礼時の申し送りはイニシャルするなど配慮し、書類等は施錠のできる事務所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の状態や性格に合わせて、話しやすい環境をつくり、自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人の安全を第一に考え、それぞれのペースに合わせて、可能な範囲で希望にそえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室の洗面台にヘアブラシや洗顔石けんシェイバー等を設置し、必要に応じて介助しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みや希望を取り入れ、手作りの食事を提供したり、本部から定期的に行事食を届けてもらっている。 調理から配膳、片付けまでを利用者様と職員が協力して行っている。	献立は入居者からの希望を取り入れ、毎日職員と一緒に新鮮な食材を買いに行き、3食職員と入居者のできる人で作っている。職員は介助したり、話しかけて見守り、後で持参の弁当を食べている。片付け、お茶碗洗い、拭くなどやれる人が職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量や水分量を記録し、摂取が困難な方には摂取しやすい形状やタイミングを考え対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 利用者様の状態に合わせて口腔ケアを声かけまたは介助をし、口腔の状態を確認把握しながら行っている。		

静岡県(グループホーム 静岡駿河の家 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立にて行える方はそれぞれのペースで、行えない方は排泄表を活かしその都度様子を見て援助している。	自立でトイレに行く人が多く、自由に行っているが、職員が後で確認をしている。時間をみて誘って、拒否する人、失禁等があってもさり気なく風呂場へ誘導するなど、職員の適切な声掛け対応で本人のプライドを傷つけることがない支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分は記録し排泄を考慮して支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な入浴時間は決まっているが利用者様の希望やその日の状況で適時利用出来るよう努めている。	1階は月・水・金、2階は火・木・土と入浴日が決まっている。入居者は入浴を楽しみにしていて、拒否する人はいない。浴室が大きく職員2人に対応し2人ずつ入っている。希望で同性介助は可能である。体調により、シャワー浴対応もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を尊重しその時の状況に応じた休息や安眠への支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方された薬は、薬剤師に確認し記録している。薬係りを設置し、薬係りの指示のもと全ての職員が把握出来るよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味を考慮し適時ドライブや外食等支援している。ホームでもカラオケ、ランプおりがみ、花札など希望に合わせて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	動物園や競輪場や外食等家族や地域の方と協力し支援出来るよう努力工夫している。	中庭に花やミニ野菜を植えたり、ベンチを置いてあり、外気浴を兼ねて外に出ることが多い。職員と毎日買い物に出かける、入浴日でない日に交代で散歩に行っている。家族同行で墓参りや外食など出かけている。	

静岡県(グループホーム 静岡駿河の家 1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	まとまったお金はホーム内の金庫で保管している。 欲しい物がある場合は、その都度言ってもらい買い物に同行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があればやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な環境や季節感を感じてもらおうよう共同空間には季節に応じ利用者様の作品や写真を飾っている。	居間は明るく簾やカーテンで太陽光を調整している。エアコン、温度計で温度調節し、管理者は生活臭、トイレの臭いに気をつけていて、換気や市販の臭い取りで対応している。入居者は仲良し同士テレビの前の大きなソファに身をゆだね、ゆったりと過ごしている。段差なく出られる中庭にベンチが置いてあり、日光浴を兼ねて外に出て季節の花、野菜作りを楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには食事をするテーブルとテレビの前にソファを置いて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様それぞれの好みの物や使い慣れた物を持って来て頂き心休まる居室作りを目指し努力している。	エアコン・防災カーテン・ベッド・洗面台・ナースコール器が装備されていて、タイルカーペットがベッドの下等に敷かれクッションになっている。テレビ・筆筒・飾り棚等自分の使い慣れた大切な品を持ち込んで過ごしやすい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活でのコミュニケーションの中で利用者様それぞれのADLや好みなどを理解し自立した生活を目指している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200098		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 静岡駿河の家 (2号館)		
所在地	静岡県静岡市駿河区中野新田396		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2294200098-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成26年 9月 10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様とご家族のように親密に付き合い、御近所の方々とも、会議やイベントを通し良好な関係を築くことが出来ている。開設当初より食事はすべて手作りにこだわり、食材は毎日買い物をして新鮮な物を提供している。買い物には利用者様も同行し、食事作りにも参加して家庭的な雰囲気を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方が気軽にホームへ訪れてくれるように、イベントや会議を通し、親交を深め利用者様もスタッフも明るく笑顔で、日々過ごせるような理念をスタッフ一同で共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでのイベントに地域の方々をお招きしている。地域の行事には職員、利用者共に度々参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、利用者様の現状をお話することで認知症についてお伝えし、理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げた議題について、参加して頂いた皆様からも様々な意見を頂きサービスの向上に繋がると考えられる意見は、取り入れさせて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホームの現状やサービスの在り方について相談等を通し、様々な情報交換を行いサービス向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に職員会議での議題に取り入れることで職員全員に禁止行為を再確認させ、利用者様が快適に過ごすことが出来るサービスを常日頃心掛けるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や施設内での職員会議にて「虐待」について定期的に学び、その防止に努めている。		

静岡県(グループホーム静岡駿河の家 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の中で勉強会の時間をつくり、職員皆が学べる機会を作っている。必要に応じて権利擁護を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様 御家族様の立場に出来るだけ近づき、理解納得して頂けるまで何度でも相談説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、利用者様御家族様 外部者 管理者 職員で意見要望等話し合う場を提供している。施設内に、意見箱を設置してある。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見や提案を聞き、話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	内部施設評価を年間に数度行い、職場環境の確認を行っている。また、地域責任者を通し本部との連携を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受ける機会を確保しレポートを通し職員の意識や能力を確認している。それに従い課題提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への訪問 系列施設での業務 研修 運営推進会議等を通し、ネットワークを構築しサービスについて情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と直接話をするように心掛けている。希望や本音を聞き、信頼関係を築くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と話、入居前の様子等なるべく多くの情報を得るよう心掛け、今後のサービスにかすようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人 家族等から集めた情報を分析し、課題を明確にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴から本人の得意分野を探し、それを活かした手伝い等をしてもらうことにより自分の役割を確立し支え合う関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に何か問題、変化があった場合、御家族様に連絡している。可能であれば外出、通院等も行って頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人等と気兼ねなく会えるよう面会、外出、外泊等 柔軟に対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の性格を把握し、利用者間でトラブルにならないように間に入ったり声かけを行いフォローに努めている。		

静岡県(グループホーム静岡駿河の家 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や面会 手紙等で気軽に相談出来る様に対応し支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、入居後も適時利用者様や御家族様とコミュニケーションをとり、希望や意向等情報を収集し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族 ケアマネジャー等から情報を集め把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で生活パターンを記録し、分析把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心にご本人様御家族様、職員で話し合い、それぞれの意見やアイデアを元にご本人様の残存能力を大事にケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録 介護詳細記録 申し送りノートに記録し、職員皆で確認し、情報の共有を図り実践に活かす様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で可能な限り、利用者様の要望を汲み取り、計画にはないドライブや外出、外食等 日々の業務にとらわれずに急な希望にも対応を心掛けている。		

静岡県(グループホーム静岡駿河の家 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や町内で開催される行事や祭事に積極的に参加し、また御家族様とご近所様との交流の場も提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、御家族様の要望に応じかかりつけ医または提携医に定期的又は必要に応じ受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様との関わりの中で得た情報や気づきを申し送りや介護詳細記録に記入し受診の際に看護職に伝えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	異常時にはバイタルチェックを行い現状の把握をすると共にかかりつけ医へ連絡し、助言を頂くかまたは受診している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様と話し合いの場をもち、事業所で出来る事を説明し、御家族様の意向を伺い、他施設への移動が必要な場合は、共に検討し探していく様、地域の関係者と共にチーム体制をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的または必要に応じて勉強会を行い実践力の強化を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中で地域住民の方々と検討し、協力を求めたり、避難訓練を年2回実施し様々な状況を想定して実践検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけ時、～さんと名前でお呼びすることが多く、その方を尊重しつつ親しみを込めて言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを大切にし、職員と利用者様との信頼関係を構築するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的なリズムは守りつつ、利用者様の状況や希望がある場合はその都度必要に応じて対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している方には衣服等自分で選択して頂いている。支援が必要な方は職員が介助にて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の残存機能を使い、調理、配膳、食器拭き等を行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の把握、栄養バランス、形状に注意し、工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケア、義歯洗浄を行い、介助が必要な方は職員が口腔ケアを行っている。		

静岡県(グループホーム静岡駿河の家 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握して時間をみてトイレ誘導の声かけをしている。また自立している方もされていない方も、快適にゆっくりとトイレを使用して頂けるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューや栄養を十分考え、特に野菜を豊富に取り入れるようにしている。体操も毎日行い体を動かす様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には曜日や時間帯が決まっている。しかしその方の希望やタイミングに合わせて入浴することもあり、個々に沿った支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様のその日の体調によっては居室にて休息して頂いたり、夜間安心して眠れるよう適切な温度を保つように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果を把握し、副作用や用法の理解など深めている。新しく処方された薬については、情報収集をして安全に服用して頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に気分転換して頂くように一人一人の能力に応じた仕事や手伝いをして頂き役割又楽しみごとを増やすようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に応じ外気浴や散歩、外食等行っている。又毎日の食材の買出しに利用者様が順番で同行して出かけている。		

静岡県(グループホーム静岡駿河の家 2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所の金庫に保管している。個々の能力に応じてお小遣い程度の金額を所持している方もいます。希望があれば一緒に買い物にいくよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合には、家族に電話をかける支援を行っている。家族が電話をかけてきた場合には、椅子を用意して取次している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節に応じた掲示物や写真を飾っている。床に余分な物は置かず広さを確保している。季節に応じて利用者様が過ごしやすい温度を保つようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを配置しており気の合う利用者様同士座られたりして会話をされたり、テレビを見ながら楽しく過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物、使い慣れた物を、御家族様に持って来て頂き、それが居室に置いてある事により安心感や居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の生活の中で得意な事や好みの物など探求、理解し その人が「できること わかること」を活かして安全かつ出来るだけ自立した生活を支援している。		